

Researcher profile

人文学部
社会学コース

准教授 山口 睦

令和4年度AI 研究デザインプロジェクト

AIからみる山口のジェンダー —明治維新から現在、 そして未来へ—

AI × ジェンダー ♀

研究内容

明治維新から現在に至るまでの山口県内外のモノ（贈物・ギフト）と、ヒト（卒業写真・祭り写真・広告ポスター）に関する年代別データを収集し、AI技術（テキストマイニング・ディープラーニング・シミュレーションなど）を用いて、山口県におけるジェンダー（女らしさ・男らしさ）の近代化とその未来像を描き出す研究を行っています。とりわけ、明治維新や関東大震災、第2次世界大戦、高度経済成長、バブル経済、東日本大震災といった大きな社会的出来事が、山口県内のジェンダーのあり方にどのように影響したのか、ヒトとモノの両面から迫ることにしたいと考えています。心理学、文化人類学、民俗学、社会学などを専門とする研究者8名による共同研究です。

研究の可能性

これまで山形県南陽市にある農家に残された香典帳などの贈答記録（1813～2002年）をもとに、伝統的な贈答の実態、近代的な個人の形成と国家の関り、贈与の個人化などを明らかにしてきました。今回は、研究対象を山口県に広げ、山口県文書館に収蔵されている17家104件の香典帳をテキストデータに変換し、AI解析によって分析します。データ分析にAIを使うことにより量的調査が可能になるため、これまでのケーススタディと異なる時間軸や地理的範囲の分析が可能になります。また、研究者個人による、ある意味恣意的な分析では現れない分析視点が出てくるのではないかと期待しています。

研究の面白さ

今回の研究テーマでは、①香典帳やギフトカタログ、②学校のアルバム（大学・高校）、③祭りの写真、④広告やポスターの4点を中心にテキストや顔画像のデータをAI技術で解析します。これら②～④のヒトの変化と①モノの変化の実態を、目に見える形で明瞭に提示できるところがAIを活用したデータ分析の面白さのところだと思います。データの分かりやすさ、面白さは、研究成果を社会に還元する際にもとても重要なポイントです。私たちの研究が人々の生活の役に立つように生かしていけたらと考えています。